

# 六供下堂木V遺跡

店舗建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



## 序

前橋市は、雄大な裾野をひいてそびえる赤城山を北方に望み、市域を利根川が豊かな水を湛え貢流する県都であります。

今、緑豊かな環境づくりの基本計画に基づき「水と緑と詩のまち」を目指し、歴史・文化遺産の保護や緑の中の環境教育の整備を進めています。

六供下堂木V遺跡の所在する六供町周辺は、かつて水田地帯が広がっていましたが市街地の拡大と共に区画整理が行われ、年々市街化が進み様相も変わりつつあります。付近には古代の土地区画制度である『条里制』の名残を思わせる「公田」や「市之坪」などの地名や字名があり、いまも前橋南部地区に目を向けると田畠の緑に恵まれた農業生産地帯が広がっています。古くから人々の生活、生産域の拠点として利用されていたことが近年多くの発掘調査によって実証され、成果を収めています。本調査も市街化に伴い地域経済の一端を担う店舗建築工事に先だって行われたものです。

調査では、奈良・平安時代の住居址3軒や浅間山降下經石(1108年)堆積層下より水田跡19面、古墳時代から平安時代・中世以降にかけての溝跡など15条や中世以降の土坑3基を検出することができました。特に住居址、水田跡が調査区の東西に分かれて検出されたことは、生活域と生産域が大別していたことや遺跡地周辺において当時の土地活用の様子をうかがい知ることができ、本地域の歴史解明に貴重な資料を加えることができました。

この調査報告書を刊行するに当たり、開発者である株式会社ヤオコー代表取締役川野幸夫氏をはじめ関係各機関並びに本遺跡周辺地域の方々の御理解と御協力に対し厚く御礼申し上げます。

平成11年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 渡辺勝利



## 例 言

- 1 本報告書は、都市計画法29条の規定する民間開発（店舗建築工事）に伴う六供下堂木V遺跡発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市六供町663-1他
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 渡辺勝利）の指導のもとに、株式会社ヤオコー（埼玉県川越市藤田本町1-5 代表取締役 川野幸夫氏）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永真弘）が実施した。  
調査担当者 古屋秀登・眞塩明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）  
荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）  
調査員 藤田貞幸（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査・整理期間 平成11年1月28日～平成11年3月26日
- 5 調査計画面積 2,550m<sup>2</sup>
- 6 出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永真弘、調査助言…金子正人、測量…板垣宏・山口和宏、写真撮影…荻野博巳・勝田貞幸、安全管理（重機オペレーター）…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。
- 8 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…荻野博巳、編集・校正…須永真弘・金子正人、実測図の整理他…板垣宏・山口和宏、写真整理・内業事務…須永豊・柴崎信江が担当した。
- 9 発掘調査に参加した方々（敬称略）  
飯島勝亥 飯島いし 石川サワ子 石田みよ子 今井つる 内山恵美子 高坂なみ 高坂やすの  
後藤きく江 後藤初治 斎藤まさ子 小林ひろ 関根時太 高橋あき 高橋春江 都丸藤子  
桑島英彰 中川住一 佐々木孝浩 根井よし子 長谷川美津江 新井愛子 伏嶋經夫 伏嶋みさを  
駒場恒平

## 凡 例

- 1 遺跡の略称は、10H31である。
- 2 遺構名の略称 住居址…H、溝跡…W、土坑…D。実測図中の記号 P…土器片、S…石。
- 3 実測図の縮尺 西側調査区1/300、東側調査区1/200、住居址1/60、カマド1/30、溝跡1/40・1/200・1/300、土坑1/40を使用。
- 4 採入図は、国土地理院発行の2万5千分の1「前橋」を使用した。
- 5 各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点と照合済。基準点A-0グリッド地点 第IX系座標値 X 41200.000m、Y -67564.000m、水準点 BM.1…96.00m、BM.2…96.00m、等高線5cm、グリッド4m間隔
- 6 土層断面の土色名及び土器類の色調名は『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局 監修 財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。
- 7 断面図の地山部分… 須恵器の断面… 施釉部分… を使用。
- 8 各遺構の面積は平面図をもとに座標面積計算より算出した。

## 目 次

序	I 調査に至る経緯……………	1
例 言	II 遺跡の位置と歴史的環境……………	1
凡 例	1. 遺跡の立地……………	1
目 次	2. 歴史的環境……………	2



第1図 遺跡位置図 (S=1:5,000)

III 調査の経過	3	2. 奈良・平安時代の住居址	5
1. 調査方針	3	3. 溝跡（古墳～平安時代・中世・近世 ・近代以降）	5
2. 調査経過	3	4. 中世以降の土坑	8
IV 層序	4	5. 平安時代の水田跡	9
V 検出された遺構と遺物	5	VI まとめ	10
1. 概観	5		

## 挿図

第1図 遺跡位置図 (S-1 : 5,000)	16
第2図 周辺遺跡図 (S-1 : 25,000)	2
第3図 発掘調査経過図	3
第4図 西側調査区基本土層断面図	4
第5図 東側調査区基本土層断面図	4
第6図 六供下堂木V・六供下堂木II遺跡 遺構検出状況関連図	13
第7図 西側調査区平面図	15
第8図 W-1～6・D-1実測図	16
第9図 東側調査区平面図	17
第10図 H-1・2実測図	18
第11図 H-1・2カマド・H-3実測図	19
第12図 H-3カマド、D-2・3、W-7・8実測図	20
第13図 W-9～15断面図	21
第14図 石器、古墳～奈良・平安時代の遺物	22
第15図 奈良・平安時代の遺物、鉄製品	23

## 表

水田跡計測表	9	出土遺物観察表	12
--------	---	---------	----

## 写真図版

図版1 西側調査区調査前現況（南から撮影）、東側調査区調査前現況（西から撮影）、西側調査区作業風景、西側調査区全景（南から撮影）、西側調査区全景（東から撮影）、W-3全景、W-4全景、W-5全景	
図版2 As-B軽石下水田面に残る足跡群、D-1全景、東側調査区全景（南から撮影）、東側調査区（西から撮影）、H-1・2全景、H-1カマド完掘状況、H-2カマド完掘状況、H-1・2遺物出土状況	
図版3 H-3・W-7全景、H-3カマド残存状況、H-3遺物出土状況、H-3出土遺物（鉄錆）、W-8全景、W-9・10・11（右から）全景、D-2完掘状況、D-3完掘状況	
図版4 石器、古墳～奈良・平安時代の遺物	
図版5 奈良・平安時代の遺物、鉄製品	

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、株式会社ヤオコー六供店舗建築工事（前橋市六供町663-1他）に伴い、開発行為者より前橋市教育委員会に埋蔵文化財の有無について、事前協議があった。市教育委員会では、平成8年度の六供下堂地区画整理事業に伴う発掘調査で、古墳時代から奈良・平安時代の遺構が検出されていることから、申請地内の実掘調査を実施した。その結果、平安時代の遺構が包蔵されていることが判明したので開発行為者と協議のうえ、発掘調査の実施及び記録保存することとなった。

発掘調査は、開発行為者と市教育委員会のもとに組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団（以下調査団といふ。）及び民間調査機関との三者で契約を締結し、調査団の指導・監督のもと発掘調査を受託者スナガ環境測設株式会社が実施した。なお、遺跡名称である六供下堂木V遺跡の「下堂木」は、旧地籍の小字名を採用している。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

### 1. 遺跡の立地

本遺跡は、JR前橋駅から南へ約1.3kmにあり、関越自動車道高崎インターチェンジから県道27号線（高崎・駒

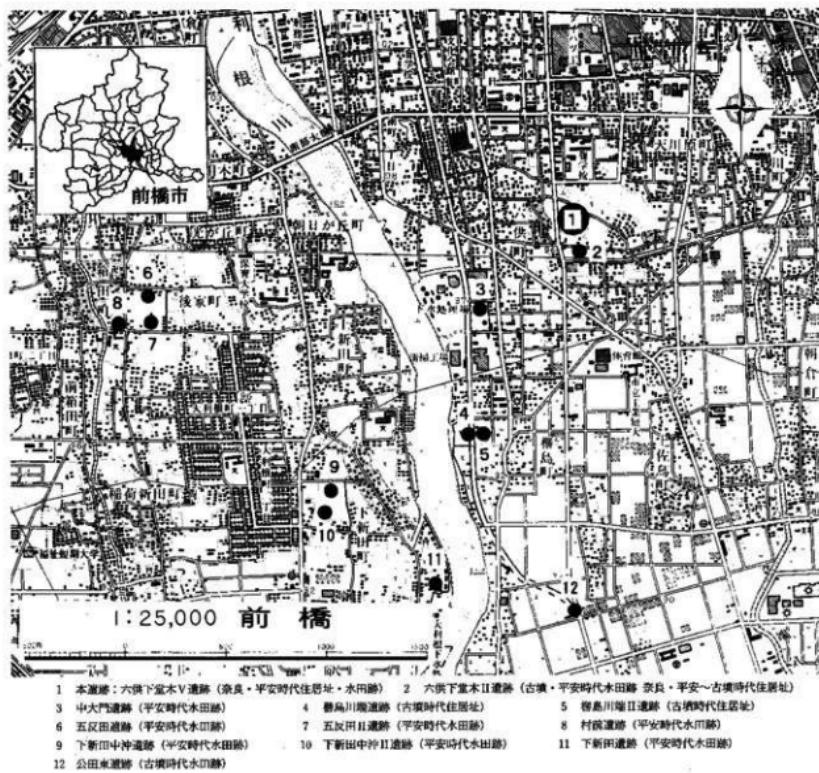
形線）を東へ3kmほど進むと県道11号線（前橋・玉村線）と交差する。これを左折し、2.3kmほど北上し前橋工科大学を左に見ながらさらには0.5km程行った交差点を右折すると北へ0.4km程のところに本遺跡がある。

遺跡の東方約1kmには、一級河川端気川が、南流している。この川は、南部農耕地帯の重要な用水で西方約1kmに流れる利根川に合流するまでに多数の堰があり、櫛島用水やその他の用水に分派している。本遺跡はこの端気川と利根川に挟まれたほぼ中間の前橋台地上に位置する。

周辺の地域は、標高96m程の平坦な地形を利用し、かつては水田が広がっていたが現在、土地区画整理事業が行われ市街化が進められている。この前橋台地の組成構造は、火山泥流堆積物（前橋泥流堆積物）とそれを被覆する火山灰シルト粘土質（水成上部ローム層）であり、台地の北東縁は広瀬川低地帯と直線的な崖で区され西は横名山麓東斜面に広がる扇状地へと続いている。

## 2. 歴史的環境

本遺跡周辺の歴史的環境について概観すると、縄文時代以前にかけて人跡は認めがたい地域であったが櫛島川端遺跡において上部ローム層に被覆された泥流丘上で縄文時代草創期後半の土器片（撚糸文式土器）の検出があり本地域の歴史を数千年さかのぼる結果をもたらした。ここでは弥生時代後半の集落も検出され、この周辺の



第2図 周辺遺跡図 (S=1:25,000)

土地利用は既にこの時代から営まれていたことが想定される。古墳時代では本遺跡に隣接する六供下堂木II遺跡からは前期の住居址や Hr-FA 下水田跡や As-B 軽石下水田跡が検出され、櫛島川端II遺跡では前期の住居址が検出されている。

さらに利根川支流（かつては広瀬川低地帯を流下したと言われている）以前には地続きであったと思われる利根川西岸の高崎市域では、日高遺跡をはじめとし新保遺跡、新保田中遺跡などの As-C 軽石下水田跡が検出されている。

前橋市では、村前遺跡、五反田遺跡、五反田II遺跡、下新田遺跡、下新田中沖遺跡、下新田中沖II遺跡などで平安時代水田跡が検出されている。一方、利根川東岸では、条里的地割と想定される平安時代水田跡が公田東遺跡、櫛島川端遺跡等で検出されている。以上のことからも、この一帯が既に4世紀以降、生産域として利用がなされていたことが認められる。また、本遺跡の東方向約1.0~2.0kmに位置する天川二子山古墳や八幡山古墳を中心とする朝倉古墳群の文化を支えた地域との関連がうかがえ、条里制を忍ばせる地名や字名が随所に残り、今日まで農業生産地帯として地域の経済を支えてきたことがうかがえる。

### III 調査の経過

#### 1. 調査方針

調査区が、東西2箇所に分かれているため、それぞれ西側調査区、東側調査区と本文中では呼称することとした。グリッド設定は4m間隔でを行い、公共座標に基づき東西方向に延びる緯線に直交する経線を算用数字(1~34)で、南北方向に延びる経線に直交する緯線をアルファベット(A~U)で付して、4mグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また、水準は公共水準点に基づき調査区内に測設した。

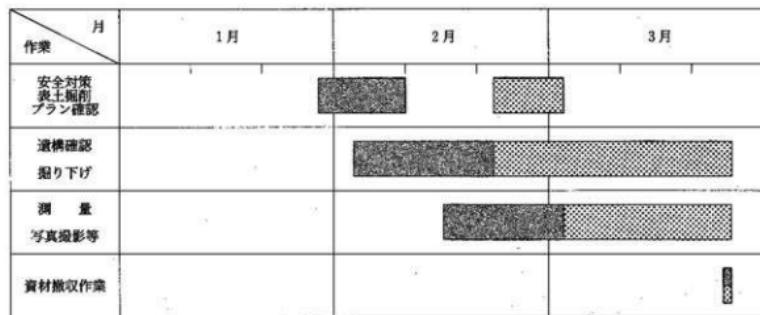
図面作成は、1/10、1/20、1/40、1/500の縮尺を使用し、トータル・ステーション及び平板・造形による細部測量で作図を行った。また、遺構・遺物等の写真撮影（白黒・リバーサルフィルム）も行った。

#### 2. 調査経過

平成11年1月28日より現地にて立会、調査範囲等の指示を受け作業に入る。1月30日より資材、重機類の搬入、仮設トイレを設置。また、道路に面している部分が多いため安全対策用の防護ネットを張り作業を進める。

2月3日より市調査団の指導のもと西側調査区より表土掘削を開始し並行して人力による精査、遺構確認を実施した。その結果、西側調査区より As-B 軽石下水田跡や溝跡等を検出し、測量作業や写真撮影、遺物取上げ等を行い作業を進めた。また、東側調査区についても住居址や溝跡、土坑等を検出し、同様に調査を行った。調査終了後、東・西側調査区に下層の遺構確認のため深掘りトレントを入れ調査を行ったが遺構の検出がないため調査を終了し、資材の撤収を行い調査・整理を3月26日に完了した。

第3図 発掘調査経過図

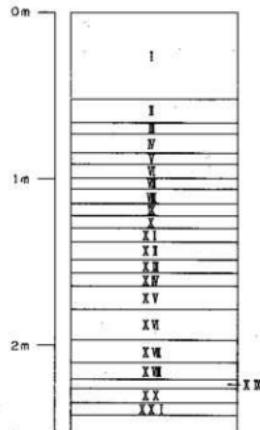


## IV 層序

層序は、西・東側調査区内にそれぞれ入れた深掘りトレンチの土層断面をもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。

### 西側調査区

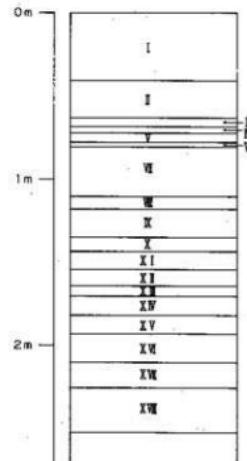
- I 褐色の盛土（客土）
- II 灰色の盛土（客土）
- III 暗褐色細砂層 白色軽石粒、黄橙色土を含む
- IV 暗褐色細砂層 白色軽石粒を含む
- V 暗褐色細砂層 白色軽石粒を含む
- VI 黄褐色砂層
- VII As-Bの灰層 紫灰色を呈する
- VIII As-B軽石層
- IX 暗褐色土層 粘性、縮まりあり、白色軽石粒とAs-C軽石を含む
- X 黒色土層 粘性、縮まりあり、As-C軽石  $\phi$  1~3mmを1%強含む
- XI 黒色土層 粘性、縮まりあり、僅かにAs-C軽石を含む
- XII 暗褐色粘質土層 軽石を含む
- XIII 暗褐色粘質土層 白色軽石粒を含む
- XIV 底褐色粘質土層 粗砂、白色軽石を含む
- XV 黄褐色細砂層 14層を僅かに含む
- XVI 黄褐色細砂層
- XVII 灰褐色微砂層
- XVIII 黄褐色粗砂層 粘質土ブロックを含む
- XIX 灰褐色粘質土層
- XX 暗灰褐色粘質土層
- XXI 灰白色粘質土層



第4図 西側調査区基本土層断面図

### 東側調査区

- I 盛土（客土）
- II 暗褐色細砂層 粘性なし、縮まり強い
- III 暗褐色細砂層 粘性なし、縮まり強い、As-B軽石を10~20%含む
- IV As-Bの灰層 紫灰色を呈する（土層の位置により堆積あり）
- V As-B軽石層（土層の位置により堆積あり）
- VI 黄褐色微砂層 粘性・縮まりあり、As-B軽石を5%含む
- VII 黑褐色細砂層 粘性ややあり、縮まりあり、白色軽石  $\phi$  1~3mmを3%含む
- VIII 黑色土層 粘性・縮まりあり、As-C軽石  $\phi$  1~3mmを1%強含む
- IX 黑色土層 泥質・縮まりあり、微砂と僅かにAs-C軽石を含む
- X 暗褐色粘質土層 軽石を含む
- XI X黄色粘質土層 僅かに軽石を含む
- XII 黄褐色粘質土層 粗砂を含む
- XIII X黄色細砂層 粗砂を含む
- XIV X黄色細砂層 酸化あり
- XV 灰色粘質土層
- XVI 灰色微砂層
- XVII 灰色微砂層
- XVIII 灰色粘土層



本文中に使用した略号は以下の通りである。

- As-C軽石：4世紀降下浅間山起因の軽石層
- Hr-Fa：6世紀初頭降下榛名山起因の火山灰層
- As-B軽石：1188年降下浅間山起因の軽石層

第5図 東側調査区基本土層断面図

## V 検出された遺構と遺物

### 1. 概観

本遺跡において、西側調査区では As-B 軽石の堆積が北西側の微高地部分以外に検出され、水田跡が広がっていた。また、東側調査区では As-B 軽石の堆積が全体に及ばず部分的に検出され、水田跡は検出されなかったが住居址等を検出した。奈良・平安時代住居址 3軒、水田跡19面と古墳～平安時代・中世・近世・近代以降の溝跡15条、中世以降の土坑 3基を検出した。遺物は、東・西調査区全体で須恵器・土器片・鐵器・石など総数12,824点検出した。

### 2. 奈良・平安時代の住居址

#### H-1号住居址 [第9~11図、図版2]

東側調査区の南西で R-28~30、S-28~29グリッドに位置する。形状 ほぼ長方形を呈す。規模 長軸(5.3m)、短軸(4.25m)、確認面から床面までの壁高 4~8cm。面積 20.23m<sup>2</sup>(推定)、方位 N-65°-E、カマド 東壁の中央やや南よりに位置する。主軸方向 N-82°-E で、全長90cm、幅48cm、焚口部幅35cm。構築材は、左袖に砂岩質の石材を使用。柱穴 北東側に D-1 と重複して 1箇所検出した。長径38cm、短径27cm、深さ25cmの楕円形である。土坑 D-1 は D-2 と並ぶ形で北東隅にある。長径88cm、短径60cm、深さ52cmの楕円形である。用途は位置関係から貯蔵穴と考えられる。D-2 は、長径120cm、短径54cm、深さ10cmで、灰・焼土等の堆積が見られた。カマド左袖付近にあることから灰を置くための穴と思われる。床面 特に貼り床ではなく As-C 軽石を含む黒色土層まで掘り込んでその上に灰褐色土層を整地して床面としている。重複 H-2号住居址と重複し、壁・床面が掘り込まれていることから H-1号住居址が古いと思われる。

遺物 須恵器片、土器片、石など749点を検出した。図示したものは、遺物No15~18である。

#### H-2号住居址 [第9~11図、図版2]

東側調査区の南西で R-28~29、S-28~29、T-28グリッドに位置する。形状 ほぼ長方形を呈す。規模 長軸5.2m、短軸4.15m、確認面から床面までの壁高 6~13cm。面積 19.99m<sup>2</sup>(推定)、方位 N-64°-E、カマド 東壁の中央やや北よりに位置する。主軸方向 N-67°-E で、全長85cm、幅50cm、焚口部幅40cm。柱穴 中央やや北西よりに 1箇所検出した。P-1 の長径32cm、短径30cm、深さ29cmの円形である。貯蔵穴 カマドの右袖脇にあり長径94cm、短径72cm、深さ59cmの楕円形である。床面 As-C 軽石を含む黒色土層まで掘り込み、その面を灰褐色土層で整地して床面としている。重複 H-1号住居址と重複し、床面と南壁を掘り込んでいることから H-2号住居址が新しいと思われる。

遺物 須恵器片、土器片2,057点を検出した。図示したものは、遺物No19~24である。

#### H-3号住居址 [第9~11・12図、図版3]

東側調査区の南西で T-27~28、U-27~28グリッドに位置する。形状 ほぼ長方形を呈す。規模 長軸(4.3m)、短軸3.8m、確認面から床面までの壁高15~20cm。面積 13.43m<sup>2</sup>(検出値)、方位 N-110°-E、カマド 試掘トレレンチによって焼土範囲が検出され、カマド東壁側は燃焼部から煙道部分まで試掘トレレンチにかかり焚き口部分のみが残る。主軸方向 N-86°-E で、全長不明、幅不明。構築材は、左袖や燃焼部に安山岩質の石材の使用が見られる。柱穴 検出されなかった。貯蔵穴 試掘トレレンチにより確認され、残存径78cm、深さ45cmの楕円形である。床面 As-C 軽石を含む黒色土層まで掘り込んでその上に灰褐色土層を整地して床面としている。また、掘り方より黒色土層の地山は南壁側への傾斜が見られた。重複 南西壁コーナーで W-7 によって壁が切られている。新旧関係は、W-7 が新しいと思われる。

遺物 須恵器片、土器片2,303点と鐵器 1点、鐵製品 1点、石 4点を検出した。図示したものは、遺物No25~31である。

### 3. 溝跡 (古墳～平安時代・中世・近世・近代以降)

#### W-1 [第7・8図]

西側調査区の北西隅でB-1～C-2グリッドにかけて位置する。As-B軽石が覆った水田面が途切れる微高地部分にある。規模は、総延長7.26m、上幅20～35cm、下幅8～18cm、深さ2～6cmを測る。断面形状は、半梢円形を呈する。掘り込みは浅く、黄橙色砂質土層面を僅かに掘り込んでいるため確認できたが途中から確認できなくなる。覆土は、軽石粒を含む細砂である。壁面土層から見ると客土下の黄橙色砂質土（耕作土）と同じ土層からの掘り込みと思われることから近世以降の溝と思われる。走行は、北西から南東方向へ延びる。流水方向は、北西側の溝底の標高96.05mから南東側標高95.99mにかけて流れたと思われる。遺物は検出されなかった。

#### W-2 [第7・8図]

西側調査区の北西隅でD-0～2、C-2グリッドにかけて位置する。W-1と同じく水田面が途切れる微高地部分にある。規模は、総延長9.00m、上幅62～82cm、下幅33～49cm、深さ2～4cmを測る。断面形状は、半梢円形を呈する。掘り込みは浅く、黄橙色砂質土層面を僅かに掘り込んでいるが、途中から確認できなくなる。覆土は、褐色細砂層である。壁面土層からW-1と同じく近世以降の溝と思われる。走行は、東西方向へ延びる。流水方向は、西側の溝底の標高96.01mから東側標高95.99mにかけて流れたと思われる。遺物は検出されなかった。

#### W-3 [第7・8図、図版1]

西側調査区の南東隅でK-9～M-9、K-11グリッドにかけて位置する。東壁側から南壁側へL字状に曲がっている。規模は、総延長(14.45m)、上幅50～62cm、中段22～35cm、下幅10～28cm、深さ14～25cmを測る。断面形状は、二段に掘られた薺研状を呈する。掘り込みは、壁断面よりAs-B軽石堆積下と上層はAs-B軽石を掘り込んでいるのが見られ二度掘られた状況がうかがわれる。As-B軽石を挟んで掘られていることから平安時代以降の溝と思われる。走行は、東壁からL字状に南壁方向へ延びる。流水方向は、東壁側の溝底の標高95.34mから南壁側標高95.31mにかけて流れたと思われる。遺物は須恵器片を2点検出した。

#### W-4 [第7・8図、図版1]

西側調査区で南壁よりK-6～K-9グリッドにかけて位置する。規模は、総延長11.12m、上幅16～30cm、下幅7～13cm、深さ2～4.5cmを測る。断面形状は、半梢円形を呈する。掘り込みは、As-B軽石下の水田面や畦畔を僅かに掘り込んでいる。覆土がAs-B軽石を多く含む土層であることから平安時代以降と思われる。走行は、東西方向へ延びる。流水方向は、東側の溝底の標高95.56mから西側標高95.54mにかけて流れたと思われる。遺物は検出されなかった。

#### W-5 [第7・8図、図版1]

西側調査区で南東側K-5～11、N-5グリッドにかけて位置する。規模は、総延長28.6m、上幅22～100cm、下幅12～47cm、深さ2～15cmを測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。掘り込みは、水田面や畦畔を掘り込んでいる。覆土は、現耕作土と同じ灰色土層（客土と同じ）であることから近代以降の新しい溝と思われる。走行は、東壁側から南壁側へ湾曲しゆるやかにL字状に曲がっている。流水方向は、南壁側の溝底の標高95.63mから東壁側標高95.48mにかけて流れたと思われる。遺物は須恵器片1点、陶器片1点を検出した。

#### W-6 [第7・8図]

西側調査区で南壁側中央のM-5、N-5グリッドにかけて位置する。規模は、総延長5.4m、上幅30～50cm、下幅16～34cm、深さ4～7cmを測る。断面形状は、半梢円形を呈する。掘り込みは、As-B軽石層と水田面を僅かに掘り込み、南壁土層断面では耕作土下からの掘り込みが見られるが北側で確認できなくなる。覆土は、As-B軽石を含む土層である。As-B軽石層を掘り込んでいることから中世以降の溝と思われる。走行は、南北へ延びる。流水方向は、南壁側の溝底の標高95.60mから北側標高95.55mにかけて流れたと思われる。遺物は検出されなかった。

#### W-7 [第9・13図、図版3]

東側調査区で南西隅のT-26、U-28グリッドにかけて位置する。規模は、総延長7.7m、上幅50～60cm、下幅30～40cm、深さ10～14cmを測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。掘り込みは、隣にあるH-3号住居址の壁を一部分壊

している。覆土がAs-B軽石であることから平安時代の溝と思われる。走行は、西壁側から南壁側へ延びる。流水方向は、西壁側の溝底の標高95.60mから南壁側標高95.54mにかけて流れたと思われる。遺物は須恵器片8点、土師器片14点を検出した。

#### W-8 [第9・13図、図版3]

東側調査区の中央北壁側から南壁のS-30～V-31・32グリッドにかけて位置すると推定される。規模は、総延長11.10m、上幅166～190cm、下幅40～110cm、深さ9～13cmを測る。断面形状は、半梢円形を呈する。W-9,10と重複し、As-B軽石で埋まつたW-8が先に検出され、W-9,10は、As-B軽石の擾乱層を下げて検出されていることからW-8がW-9,10を掘り込んでいたと考えられる。すなわちW-8がW-9,10に比べて新しいと思われる。掘り込みは黒色土層まで見られ、覆土がAs-B軽石であることから平安時代の溝と思われる。走行は、北西から南東方向へ延びる。流水方向は、北西側の溝底の標高95.60mから南東側標高95.55mにかけて流れたと思われる。なお、O-29～Q-31グリッドにかけて確認面でAs-B軽石を含む土層で埋まり、やや溝状に凹んでいる範囲を確認できた。幅や形状、覆土からW-8に類似し走行も続くと考えられるが判然としない。遺物は須恵器片6点、土師器片64点を検出した。

#### W-9 [第9・13図、図版3]

東側調査区で東壁から南壁のP-33～U-30グリッドにかけて位置する。規模は、総延長25.15m、上幅30～50cm、下幅8～20cm、深さ25～40cmを測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。W-10と平行する形で掘られ途中で交差する。検出時W-9はAs-B軽石で埋まり、その掘り下げ途中でW-10を検出した。その状況から作り替えの溝とも考えられる。W-8と重複し、W-9の壁面にW-8の掘り込みが見られることからW-9はW-8より古く平安時代に位置すると思われる。またW-14と重複し切っている。さらに溝底面には、道具による掘削痕が残っていた。掘り込みは、As-C軽石を含む黒色土層まで達する。覆土は、As-B軽石を含む砂層である。走行は、北東から南西方向へ延びる。流水方向は、北東側の溝底の標高95.48mから南西側標高95.44mにかけて流れたと思われる。遺物は溝の中段や覆土中から須恵器片4点、土師器片69点を検出した。

#### W-10 [第9・13図、図版3]

東側調査区で東壁から南壁のO-33～34、U-30グリッドにかけて位置する。規模は、総延長26.10m、上幅28～50cm、下幅8～16cm、深さ30～39cmを測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。検出時はW-9の発掘によって検出され、W-9と平行する形で走行し、途中で交差し同じ位置にあることから作り替えも考えられる。また溝底面に道具による掘削痕が残っていた。W-8と南壁側で重複しこれによって掘り込まれ、さらに土層断面からW-9に切られていることから、W-8・W-9より古く平安時代以前のものと思われる。またW-14とも重複し掘り込んでいる。掘り込みは、As-C軽石を含む黒色土層まで達する。覆土は、As-B軽石を含む砂層である。走行は、北東から南西方向へ延びる。流水方向は、東壁側の溝底の標高95.49mから南壁側標高95.35mにかけて流れたと思われる。遺物は須恵器片6点、土師器片40点を検出した。

#### W-11 [第9・13図、図版3]

東側調査区で東壁から南壁のP-33～U-31グリッドにかけて位置する。規模は、総延長21.90m、上幅60～94cm、途中の中段27～38cm、下幅8～33cm、深さ48～63cmを測る。W-9,10と平行する形で掘られ断面形状は、葉研状を呈し中段が見られる。検出状況は、As-B軽石層の堆積がなく平安時代遺構面を擾乱したAs-B軽石下の黄褐色微砂層（基本土層VI）から掘り下げられていることやW-14との重複関係から古墳時代から平安時代に位置すると思われる。掘り込みは、As-C軽石を含む黒色土層まで見られ、覆土は白色軽石を含む砂層である。走行は、北東から南西方向へ延び、流水方向は、東壁側の溝底の標高95.26mから南壁側標高95.22mにかけて流れたと思われる。遺物は須恵器片2点、土師器片9点を検出した。図示したものは、遺物No.1である。

#### W-12 [第9・13図]

東側調査区で北壁から東壁のO-32～34グリッドにかけて位置する。規模は、総延長4.75m、上幅58～72cm、下

幅25~31cm、深さ5~11cmを測る。東壁側でW-9と重複しW-9の西側肩を掘り込んでいる。断面形状は、半梢円形を呈する。客土下にある黄褐色土層より掘り込まれ、白色軽石を含む暗褐色砂層で埋まっていることから近世以降の溝と思われる。走行は、北東から南東方向へ延びる。流水方向は、北壁側の溝底の標高95.72mから東壁側標高95.69mにかけて流れたと思われる。遺物は検出されなかった。

#### W-13 [第9・13図]

東側調査区で北壁から南東方向のO-29~Q-31,32グリッドにかけて位置すると推定され、途中P-31グリッド付近で確認できなくなる。規模は、総延長14.05m(推定)、上幅35~60cm、下幅18~30cm、深さ2~7cmを測る。断面形状は、半梢円形を呈する。掘り込みは、黒色土層まで見られ、客土下の灰色土層やAs-B軽石を含む黄褐色砂層で埋まっていることから新しく、近代以降のものと思われる。走行は、北西から南東方向へ延び、流水方向は、東壁側の溝底の標高95.75mから北壁側標高95.71mにかけて流れたと思われる。遺物は須恵器片2点、土師器片9点を検出した。

#### W-14 [第9・13図]

東側調査区で北壁から南東方向のO-30~Q-33グリッドにかけて位置する。規模は、総延長14.70m、上幅50~134cm、下幅24~76cm、深さ21~41cmを測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。掘り込みは、As-C軽石を含む黒色土層まで掘り込まれている。覆土は、灰褐色・暗褐色土層である。また北西側でW-15、南東側でW-9、10と重複し、W-11と合流が見られる。新旧関係は、W-9,10,15によって掘り込まれていることから本溝が古く、W-11と合流していることから同時期の溝と考えられる。また前述と併せて、W-15が平安時代住居址より下層で検出されていることから古墳時代から平安時代に位置するものと思われる。走行は、北西から南東方向へ延びる。流水方向は、北壁側の溝底の標高95.54mから東壁側標高95.37mにかけて流れたと思われる。遺物は須恵器片11点、土師器片195点、石1点を検出した。図示したものは、遺物No.2、3である。

#### W-15 [第9・13図]

東側調査区北壁側O-30,31グリッドからH-1,2号住居址の床下を通り、南壁側のU-29グリッドにかけて位置する。規模は、総延長29.30m(推定)、上幅150~175cm、下幅30~92cm、深さ32~47cm(断面図から)を測る。断面形状は、すり鉢状を呈する。当初は、試掘トレンチにより確認され、H-1,2号住居址の方向へ延びる様相を呈していたが住居址床下では確認されず後に設定した造構確認サブトレンチによって方向が確認され、W-13,14と重複しH-1,2号住居址の床面下に延びることが明確になった。掘り込みは、As-C軽石を含む黒色土層を掘り込んでいる。覆土は、As-C軽石を含む褐色土層である。走行は、北壁側から南壁側まで見られる。流水方向は、北壁側の溝底の標高95.28mから南壁側標高95.23mを測るが部分的検出範囲での数値の為、全体は確認できない。新旧関係は、W-13に切られてW-14を切っていることからW-13より古く、W-14より新しい。また、H-1,2号住居址の床面下にあることから住居址より古く、平安時代以前のものと思われる。遺物は流れ込みの須恵器片56点、土師器片1002点を検出した。図示したものは、遺物No.4である。

### 4. 中世以降の土坑

#### D-1 [第8図、図版2]

西側調査区の微高地部分でJ-1グリッドに位置する。規模は長径28cm、短径20cm、深さ20cmを測る。形状は梢円形を呈する。覆土は灰褐色細砂層と炭化物を含む暗褐色砂層で、掘り込みは西側基本土層Ⅸの暗褐色土層まで達する。遺物は検出されなかった。

#### D-2 [第12図、図版3]

東側調査区のR-31・32グリッドに位置する。規模は、長径115cm、短径110cm、深さ27cmを測る。形状はほぼ円形を呈する。覆土は灰褐色細砂層で、掘り込みは東側基本土層Ⅸの黑色土層まで達する。遺物は検出されなかった。

### D-3 [第12図、図版3]

東側調査区のS-31, T-31グリッドに位置する。規模は、長径266cm、短径102cm、深さ20cmを測る。形状は北東から南西方向に長い楕円形を呈する。覆土は、暗灰褐色粗砂層で、掘り込みは東側基本土層Ⅸの黒色土層まで達する。遺物は検出されなかった。

### 5. 平安時代の水田跡 [第7図、図版1]

水田跡は、西側調査区のみに検出された。現地表面の盛り土部分より60~122cm程下で検出され As-B 輪石によって埋まっていた。遺物は、須恵器片8点、土師器片90点、石3点を検出した。

#### (1) 水田の地形

西側調査区の北西側と4号、10号水田跡に挟まれた部分に微高地があり、その他は水田跡になっている。2号、3号水田跡の標高96.00mから19号水田跡の標高95.50mまで比高差50cmを測り、全体の傾斜は北西から南東方向で約11/1000mの勾配が見られる。この勾配を利用し水田耕作をしていたと思われる。

水田跡計測表

水田番号	面積 (m <sup>2</sup> )	畦畔の長さ (m)				畦畔の高さ (cm)			
		東 畦	西 畦	南 畦	北 畦	東 畦	西 畦	南 畦	北 畦
1	[126.82]	10.3	-	[16.2]	-	2~4	-	[1~5]	-
2	[156.05]	-	10.3	16.2	-	-	2~5	2~7	-
3	[69.59]	-	-	[11.6]	-	-	-	[1~2]	-
4	[77.54]	(13.3)	-	-	[7.4]	(1~2)	-	-	(1~2)
5	(168.50)	6.95	5.5	24.7	(20.6)	3~5	1~3	2~6	(2~6)
6	[99.98]	(11.7)	19.0	(4.3)	5.0	(1~2)	2~5	(1~4)	5~6
7	46.09	7.5	(7.8)	6.5	10.8	1~5	(4)	3~4	1~4
8	[250.85]	(17.7)	21.5	[28.3]	-	[3~6]	4~7	[3~6]	-
9	[11.32]	-	3.2	(2.4)	[4.3]	-	4~5	[1~2]	(2~6)
10	[41.09]	7.6	-	(7.0)	-	3~6	-	(1~4)	-
11	21.81	9.4	7.6	1.7	2.8	1~4	2~3	1~3	4~9
12	[123.16]	(13.3)	9.4	[12.0]	12.0	[2~4]	2~4	[2~5]	2~8
13	[96.00]	(16.6)	(13.3)	-	10.4	[3~6]	[2~5]	-	4~7
14	[78.00]	-	10.1	(9.5)	[9.0]	-	3~7	[2~5]	[5~8]
15	[25.91]	5.7	(4.8)	(1.1)	5.2	3~4	[4~6]	[2~4]	2~5
16	[35.17]	(4.9)	-	-	[7.0]	[2~6]	-	-	(4~7)
17	[14.92]	-	3.4	[4.3]	[12.0]	-	2~3	[2~3]	[3~6]
18	[3.22]	-	[1.6]	-	[4.3]	-	[2]	-	[2~6]
19	(6.04)	-	-	-	[9.5]	-	-	-	[3~7]

1 畦畔の長さは、S=1/40図上におけるセンター間の距離

2 ( ) は、推定数値、[ ] は検出数値を表す

#### (2) 畦畔と水田区画

検出した畦畔は、部分的なものも含めて大きく分けると東西方向2本、南北方向3本、その他斜め方向や曲線を呈する畦畔が11本と推定されるもの2本を検出した。方向は、東西方向N-84°-W、南北方向N-1°~3°-W、N-7°-Eの範囲を示し、その他は斜め方向N-23°~64°-W、N-40°~66°-Eや曲線のものがある。また、調査区に設定した座標軸にほぼ沿う方向の畦畔は4, 10, 16号水田跡の東側と14, 19号水田跡の西側畦畔が南北方向にほぼ直線に延びる。また5・7号水田跡を区切る畦畔にもN-84°-Wなどがある。その他の畦畔は、地形に沿つた作りと思われ、曲線畦畔で作られている。全体で検出した畦畔の規模は、上端幅38~70cm、下端幅90~120cm、高さ1~9cmを測るものがある。また10, 16号水田跡の東側畦畔は他の畦畔より幅が広く大畦畔とも考えられるものであり、規模は上幅38~70cm、下幅70~120cm、高さ2~6cmを測る。断面形状は、全体的に圧縮されているが保存状態の良いものでは扁平な台形状を呈する。また、勾配も北西方向から南東方向に傾斜し、全体では地形に沿った区画で勾配に合わせた畦畔方向の作りが考えられ、曲線的なものが多く見られた。

### (3) 水 口

11号水田跡と12号水田跡の間で畦畔が交差する付近(K-2グリッド内)に1箇所検出した。上幅35cm、下幅13cm、掘り込み5cmを測る。流水は、11号水田跡の標高95.80mから12号水田跡は標高95.65mにかけて行われていたと思われる。水田跡全体で1箇所だけの検出であったことは、区画や面積などに統一性が見られないことへの関連性があるのか不明な点が残るが、水田としては北西から南東方向にかけての高低差を持つことで、自然に流水させることは可能と思われる。

### (4) 水田面の状況

確認面においてAs-B軽石の堆積で埋没していた。ほぼ平坦な水田面であるが小さな凸凹が全体に見られた。また、人の足跡と思われるものが11,12号水田跡に数多く確認でき、5号水田跡には南から北へ歩行した様子がうかがえるものも検出されたが途中から不明となっている。他は向きの違いや連続性のないものが多く、歩幅や歩行方向のわかるものはなかった。計測できた足跡の大きさは20~21cm、踏み跡の深さは2~7cmを測る。

耕作痕は、はっきりとしたものが検出されなかつた。また水田の耕作土は、軽石を含む暗褐色粘質土層で10~14cm程の厚さで堆積し、さらに下層には黒色粘質土層が10~12cm程堆積していることから水田の水持ちを良好なものにしていると思われる。

## VI ま と め

### 住居址

本遺跡の住居址3軒はいずれも東側調査区のAs-B軽石が薄くなった微高地の縁辺部に検出された。現在の盛土を除いた耕作土が僅かであるため、後世の耕作や擾乱により住居址の上部が壊されたと考えられ、確認面から床面までの掘り込みは4~20cm程と浅かった。3軒ともカマドを住居址の東壁側に持ち、貯蔵穴と思われる土坑があり、規模もほぼ同じであるといった共通点が挙げられる。このうちH-1号住居址とH-2号住居址は重複していて切り合いや出土遺物の時代からH-2号住居址の方が新しく、また規模やカマドの主軸方向が同じであるところから住居址を後ろへ下げて作り替えた可能性も考えられる。各住居址の出土遺物を時代区分してみると、H-1号住居址において8世紀中葉~9世紀前半のものが検出されている。H-2号住居址からは8世紀後半~9世紀中葉のもの、H-3号住居址からは9世紀前半~中葉のものがそれぞれ検出され、各住居址毎に若干の年代差が見受けられる。完形なものがほとんどなく、流れ込みの遺物も大量に存在するため、はっきり断定することはできないが記述した時代の範囲内に入ってくると考えられる。本遺跡において3軒のみの検出ではあるが、東側調査区内での遺物散布度合や平成8年度に調査した六供下堂木II遺跡(以下、下堂木II)の遺構検出状況と照らし合わせてみても南側の低地部は水田域、北や東側の微高地部には住居域や墓域などの土地利用が考えられる。このことからも本遺跡地の北・東側にも住居址が存在する可能性を含んでいる。さらに下堂木IIの第二面調査ではX55~65,Y22~24グリッド範囲に古墳から奈良・平安時代の住居址が検出されており、古墳時代から住居域として本遺跡の調査区域まで続いていることをうかがわせる。

### 水田跡

西側調査区からは浅間山の噴火(1108年)に伴い降下したAs-B軽石で埋没した水田跡が検出された。水田は、北西から南東にかけて傾斜があり北西側と西壁側の一部が微高地状になっている。他の部分からは水田跡が検出され曲線を描く畦畔で区画が作られている。また水田1区画の大きさは不規則なものが多く調査区の中央付近から北側に位置するものは大きい区画のものがあり北西から南東方向に区画が作られている。また南寄りのものは、やや区画が小さく不規則だが東西・南北方向に近い畦畔での区画が見られる。また畦畔の走行は、4,10,16号水田の東側に位置する畦畔は他より幅の広い畦畔である。それに直交する10,11,12,13,14号水田の北側に位置する畦畔はやや湾曲するが調査区に設定した座標軸に近い東西方向の畦畔に当たり大区画が想定できる。その畦畔を下堂木IIで検出された同時代水田跡の畦畔検出位置を前述した畦畔位置に当てはめると、以下の畦畔と大区画を組めることが想定できる。まず下堂木IIのX18~19,Y23グリッド内の東西方向畦畔No13で上幅82cm、下幅100cmと他より幅の広いもので大畦畔と想定できるもの、さらにX6,Y6~8グリッド内No2の南北方向畦畔、X34,Y21~23グリッド内No20の南北方向畦畔(以上六供下堂木II遺跡報告書より)で区画を想定すると、No2とNo20畦畔間隔を東

西方向に測るとほぼ109m間隔となる。またNo2を北に延長していくと本調査区のK2～N2グリッド内の他より幅広な畦畔と交わり、それと交差するK2～K11グリッド内検出の東西方向畦畔と下堂木IIの東西方向畦畔No13との間隔が約109mを測れる。北東隅の畦畔は、調査区外で検出されていないが検出された畦畔で想定すると条里区画の一町(109m)区画にあてはまることがわかる。しかし、検出された畦畔は部分的検出や弯曲するもの、調査区外にあると推定されるものの想定区画であるため、はっきり結論は出せないが、下堂木IIと本遺跡を含めて条里地割の想定が少しでもできたことは他の調査結果や今後の調査などで、より一層区画がはっきりするものと思われる。また南部地区には、櫛島川端遺跡、公田池尻遺跡、公田東遺跡や宮地中田遺跡など条里制地割と想定される水田跡が検出されていることから、本遺跡まで及ぶ条里区画が検出される可能性も否定できない。

#### 溝・土坑

調査区全体では、15条の溝跡を検出した。西側調査区では、As-B軽石下水田面や畦畔を掘り込んでいる溝が検出されたが直接水田に関わるものは検出されなかった。特にW-3は、L字状に曲がりを持つ細長い薫研拗状の掘り込みが見られる溝が検出された。部分的検出のため全体は不明だが居館址などが想定される溝である。

東側調査区では、北西方向から南東、南西方向へ延びる溝が9条検出された。As-B軽石で埋まっている溝や平安時代遺構面のAs-B軽石が混入する土層面を掘り下げている溝、平安時代遺構確認面より下層で検出された溝などがある。その中でW-14からは古墳時代前期と思われる遺物(土師器・高环)が検出されている。また、W-11からは古墳時代後期と思われる須恵器・大甕片が、W-9・10からは奈良・平安時代の遺物などがそれぞれに検出された。さらにW-15は平安時代住居址床面より下で検出した溝で住居址以前にあった溝である。その他に中世から近世以降までの溝もあり、時代の幅が見られ、その時代によって作られたことがうかがわれる。また使用目的を考えると、下堂木IIで検出された南西方向にある水田地帯へ向いている溝や本遺跡東側調査区の微高地にある住居址や下堂木IIで検出された土坑群や古墳～奈良・平安時代の住居址が位置する微高地南側縁辺部に沿った形で検出された溝などから住居址や水田跡などに関わるととも考えられるが、部分的な検出であるため全容は不明である。

土坑については、平安時代遺構面を搅乱したAs-B軽石混入土層面を掘り下げていることから中世以降の遺構と考えられ、大きさ、形から推定すると墓の可能性が考えられるがはっきり特定できない。さらに下堂木IIで検出されたX40・Y7グリッド付近の土坑群とも近接し、規模や軸方向が一致していることからも同類のものと考えられる。

#### 参考文献

芳賀東部汎地遺跡II	1988	前橋市教育委員会
大屋敷遺跡III	1995	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
五反田II遺跡	1995	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
西田遺跡	1996	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
六供下堂木II遺跡	1997	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
宮地中田遺跡	1997	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
日高遺跡	1982	群馬県教育委員会

脚注馬鹿埋蔵文化財調査事業団

## 出土遺物観察表

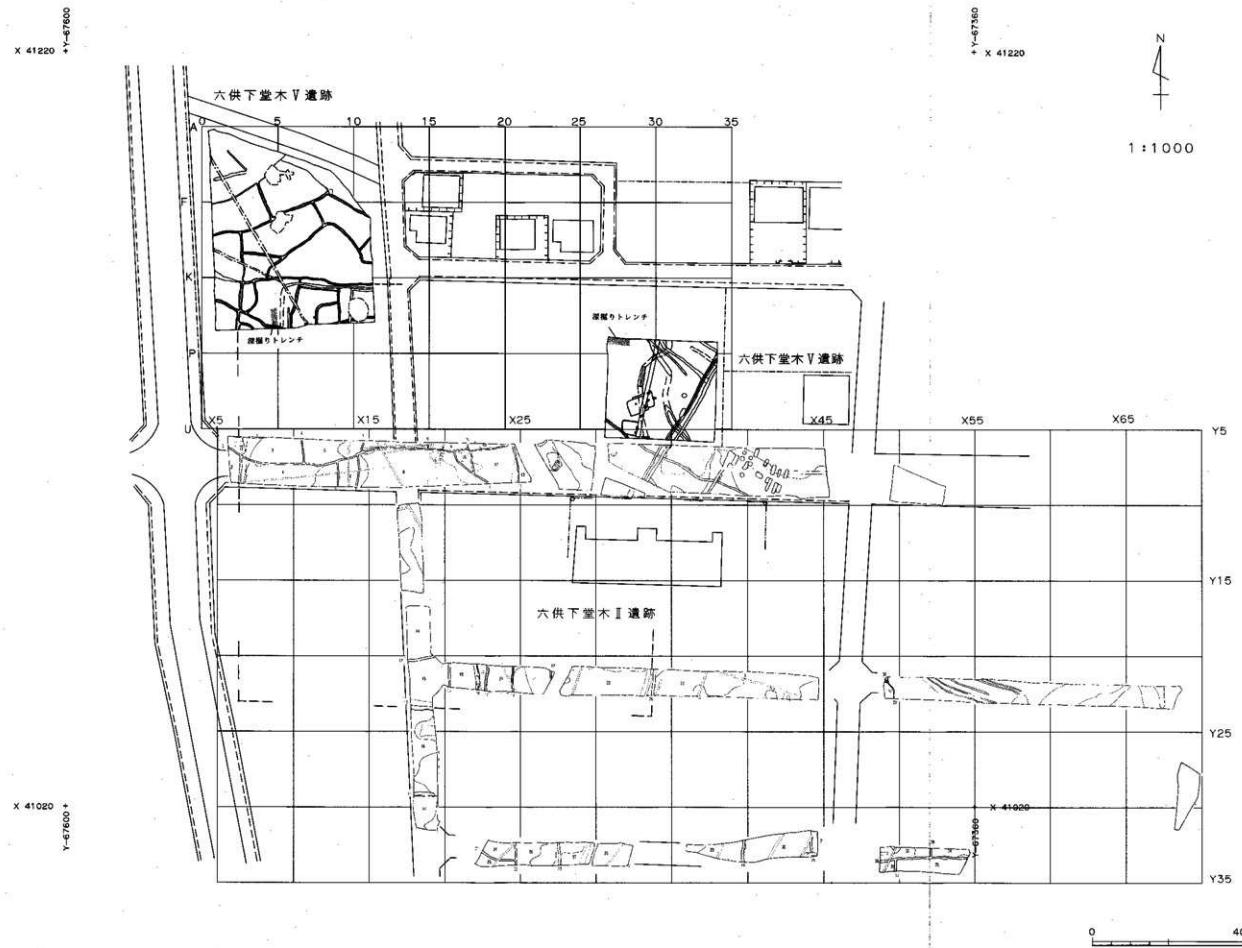
No.	出土位置	器形	大きさ 口径 直高	①土台②焼成③色調④残存 寸法(6.9) 厚さ: 1.0	成・塑形方法 被覆。外周自然輪。口縁部中位に3条の波状文が2列みられる。	実測回	回版
1	W-11-折	灰陶 大甕	長さ:(7.6) 幅:(6.9)	①細粒②良好③灰 ④1脚部	第14回	4	
2	W-14	灰陶 高台付壺	16.4 4.2	①細粒②良好③灰 ④ほぼ完形	全体内面、僅かに外斜する口縁部。外周自然輪。窓体の側面物が付着。肩出し高台。	#	#
3	W-14	土師 坯	(17.6) 11.3	①細粒②良好 ③にせい黄褐④2/3	口縁部外周自然輪で後腹巻き、口縁～体底部下部および肩部横位の直巻き。脚部短く、直巻き、直巻き。接合部瓦解で、接地面直巻き。4つの円形の孔があり、この内3孔は進三角形式に配置され、正面を意識した作り。残りの1孔は対角側にある。	#	#
4	W-15-折	土師 坯	(13.4) (2.8)	①縦～中粒②良好 ③にせい黄褐④1/4	丸底。体部縫やかに内凹、僅かに外傾して開くI型縫。横擦で。体部鋸歯形前後側で。内周I型縫横擦で。	#	#
5	D-7グリッド	石瓶	長さ:3.7 幅:1.5 厚さ:0.4 重さ:2.11g	円筒無底瓶。黒色頁岩。	#	#	
6	J-2グリッド	須恵 高台付壺	- (3.0)	①細粒②良好③灰④1/2	体部縫やかに内凹。内外周自然輪。高台回転割り。貼付高台。	#	#
7	O-28-P-27グリッド	土師 坯	(11.2)	①細粒②良好 ③明赤褐④2/3	直巻きに後をつむぐI型部見削り後腹。脚部縫外反、見削り後腹位の研削、焼付背、赤色畫面。脚部横擦で。接合部はめ込み。内周直巻き。	#	#
8	O-28グリッド	土師 坯	12.0 3.5	①中粒②良好③にせい黄褐 ④2/3	丸底。体部内凹、近く内傾するI型縫。内外周自然輪で。体部鋸歯り後腹で。内周直巻き。	#	#
9	P-28グリッド	土師 坯	(13.6) (4.3)	①細粒②中粒③良好④1/4強	丸底。体部直巻きをなして内凹、I型縫内傾。内外周自然輪後腹で。内周直巻き。	#	#
10	T-29グリッド	土師 坯	(13.2) 3.7	①細粒中粒②良好 ③にせい黄褐④1/2	丸底。体部内凹、僅かに内傾する口縁部、内外周自然輪で。体部直巻り後腹で。内周直巻き。	#	#
11	O-28グリッド	土師 瓢?	(29.0) (8.9)	①細粒②良好③中粒④1/6	腰から開き立つ模様を持て立ち上がる口縁部、横擦で。体部粗い直巻り後腹で。全体に厚壁。内周口縁～体部直巻。	#	#
12	S-30グリッド	土師 瓢	(24.8) (5.3)	①細粒②良好③にせい黄褐 ④口縁部⑤1/6	「く」の字状外反する口縁部。横擦で。両を持つ旗部、横位の直巻り、肩部無地。内周口縁～肩部無地。	#	#
13	T-30グリッド	土師 瓢	(19.6) (5.3)	①細粒②良好③明赤褐 ④口縁部⑤1/5	「く」の字状外反する口縁部。横擦で。脚部直巻り。内周口縁部無地。薄子午線。	#	#
14	T-30グリッド	土師 瓢	(20.0) (9.6)	①細粒②良好③明赤褐 ④口縁部⑤1/4	「く」の字状を付する口のI型縫。横擦で。瓶形部位削り前。体部直巻り後腹で。指押し直巻。内周口縁～体部直巻で。	#	#
15	H-1	土師 坯	(11.0) (2.0)	①細粒②良好③中粒④1/6弱	平底直底の底より内凹し、I型縫部はよく外傾。I型縫横擦で。第15回	5	
16	H-1-折	須恵 坯	(11.8) 3.4	①細粒②良好③灰白④1/2弱	体部下端部で丸味丸味を有し、ほぼ直線的に外傾。内周直巻。	#	#
17	H-1-折	須恵 坯	(14.6) (1.0)	①細粒②良好③黄灰④1/4弱	体部直線的に外傾。外周直巻。僅かに上方底、底部回転割り前。	#	#
18	H-1	土師 瓢	(23.4) (5.5)	①細粒②良好③中粒④1/7	僅かに外反、口縁部内外周直巻。脚部に顯著な横位の直巻り。	#	#
19	H-2	土師 坯	(13.4) (2.9)	①細粒②良好③中粒④3/4弱	丸底。体部は僅かに内凹。直巻り後腹で。内周直巻。	#	#
20	H-2	須恵 瓢	(23.2) 3.3	①細粒②不良③灰④1/8強	底底より弧線的に開く口縁部。内外周直巻。	#	#
21	H-2	土師 坯	(13.0) (3.6)	①細粒②良好③中粒④1/5	丸底の直底より腰やかに内反、腰の横を折ちながら外傾。I型縫横擦で。体部直巻り。内周口縁～底部直巻。	#	#
22	H-2	須恵 坯	14.5 4.1	①細粒②極良③灰白④2/3	平底の直底より直線的に開く。内外周直巻。底周回転割り前。	#	#
23	H-2	須恵 高台付壺	- (2.8)	①中粒②良好③灰白④底～高台②/2	体部内傾して立ち上がる。内外周直巻。底部余切り後腹。貼付高台。自然釉物。	#	#
24	H-2	土師 坯	(12.6) (3.2)	①細粒②良好③中粒④1/3強	強度底部に付いたぎ腰やかに立ち上がり内傾。I型縫横擦で。体部直巻り。内周口縫～体部直巻。	#	#
25	H-3	土師 坯	(12.8) (3.5)	①細粒②良好③中粒④1/4強	やや深い丸底から腰やかに立ち上がり内傾。I型縫横擦で。体部直巻り。内周口縫～体部直巻。	#	#
26	H-3	土師 坯	(14.0) (3.0)	①細粒②良好③中粒④1/3強	丸味のある底部より腰やかに内凹。口縁部横擦で。体部直巻り。外周口縫第二次焼成。底部口縫部～体部直巻。	#	#
27	H-3	土師 坯	(12.6) 2.0	①細粒②良好③中粒④1/3	平底の底底より腰やかに内凹。口縁部内外周直巻で。底部外周直巻り後腹。	#	#
28	H-3	須恵 高台部	(3.0)	①中粒②良好③灰④高台部	内外周直巻。底部高台地表面による底で直底。底部回転割り。	#	#
29	H-3	須恵 瓢	(1.2)	①細粒②良好③灰白④摸	模様。回転割り直巻。中央が擴んだ門形摸み貼付。	#	#
30	H-3	鉄鏃	長さ:(8.3) 幅:0.9 厚さ:0.7	断面四角形。広根丸尖直角接三角形式。	#	#	
31	H-3-折	鉄製品	長さ:(3.5) 幅:1.0 厚さ:0.4	断面三角形。片刃の鎌刀と思われる。	#	#	

註) 表の記述は以下の基準で行った。

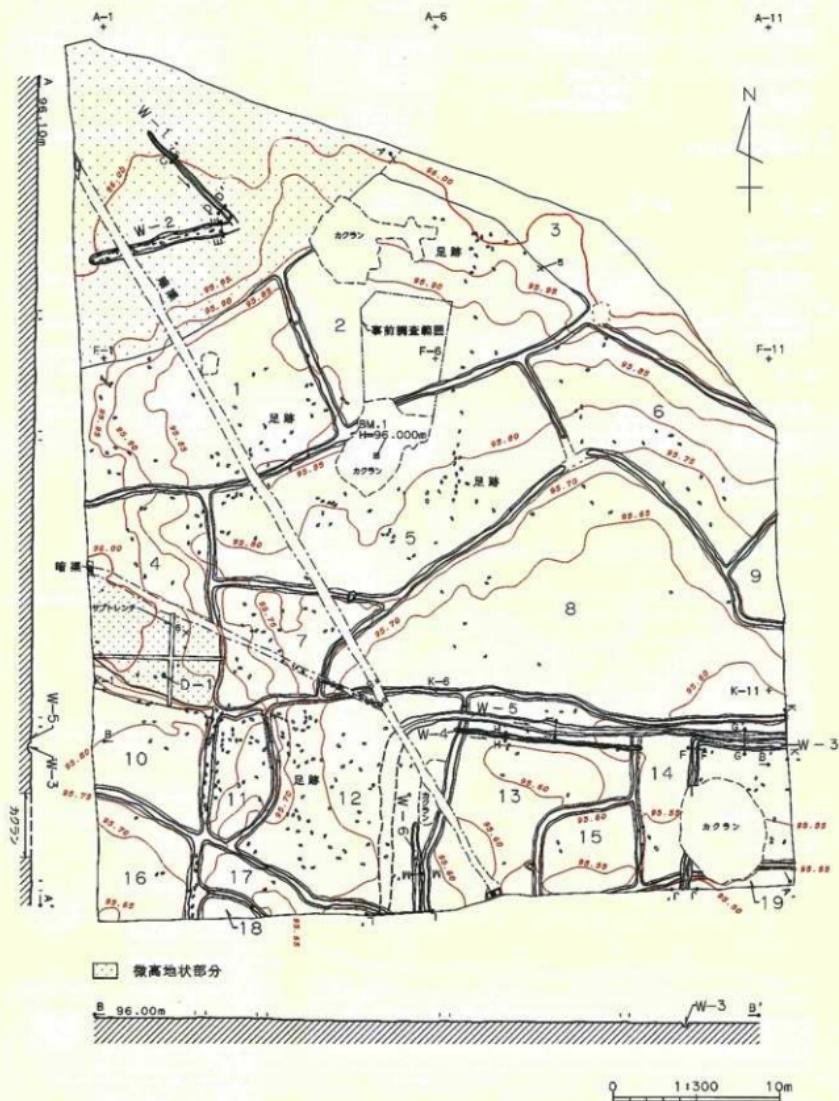
①歯士は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とした。

②焼成は、極良、良好、不良の段階。

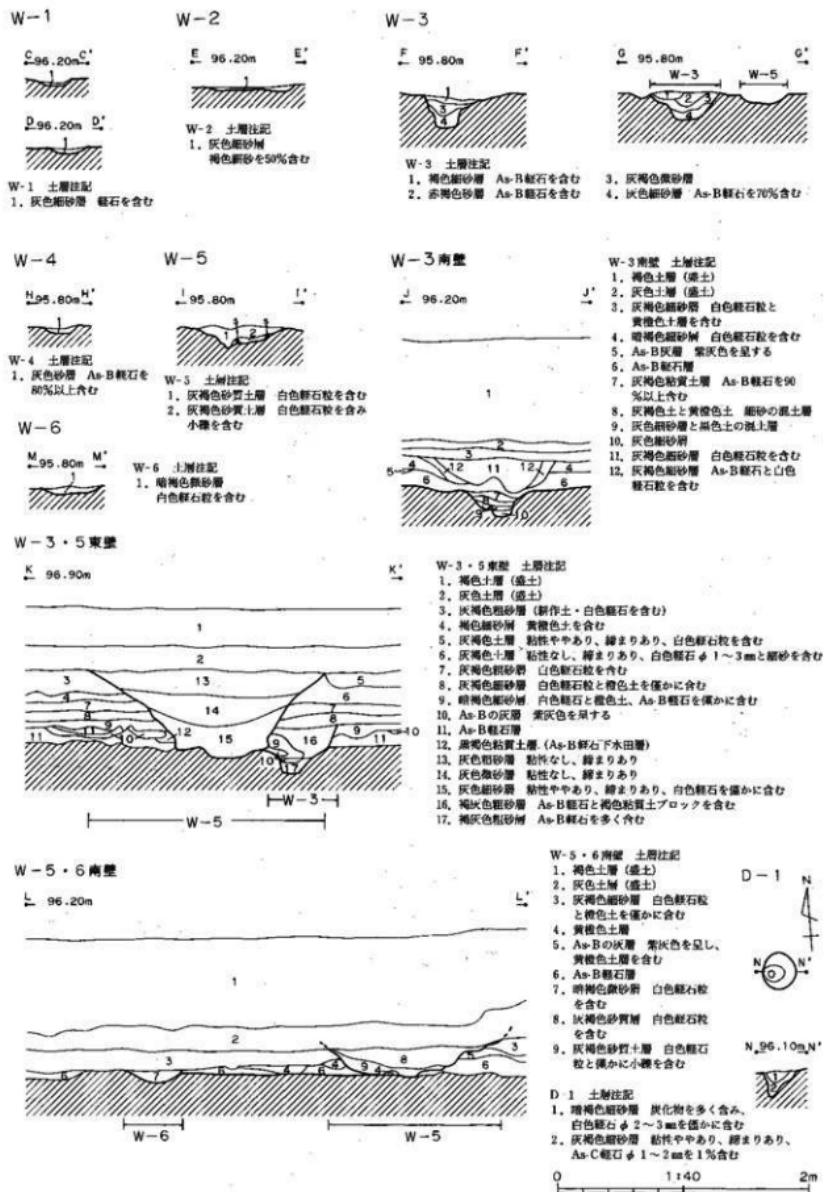
③大きさの単位はcmであり、( )は推定値及び現存値を記載した。



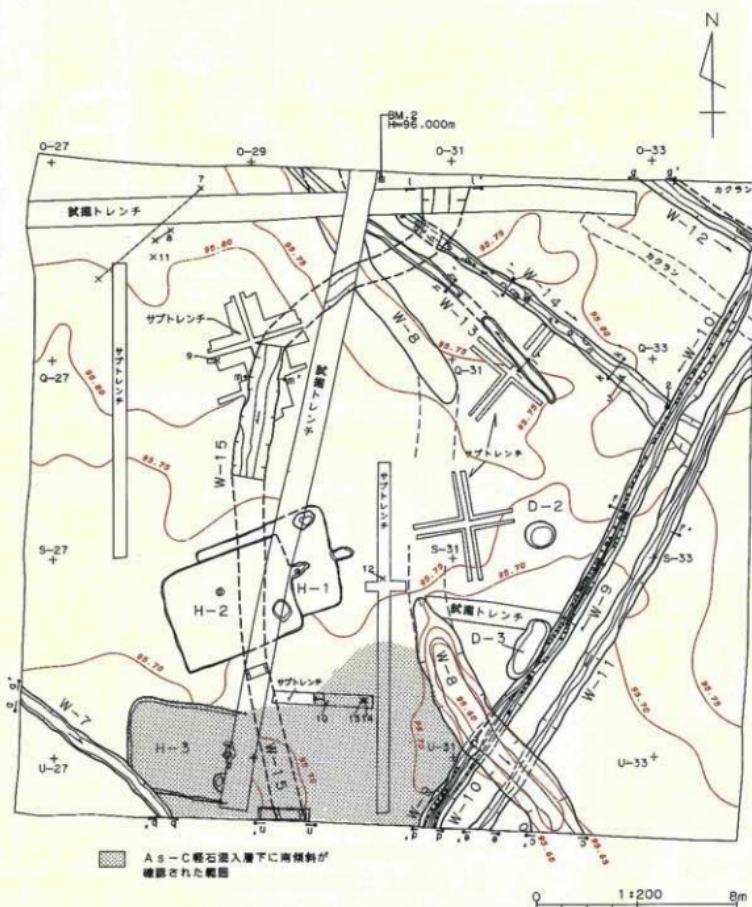
第6図 六供下堂木V遺跡・六供下堂木II遺跡遺構検出状況関連図



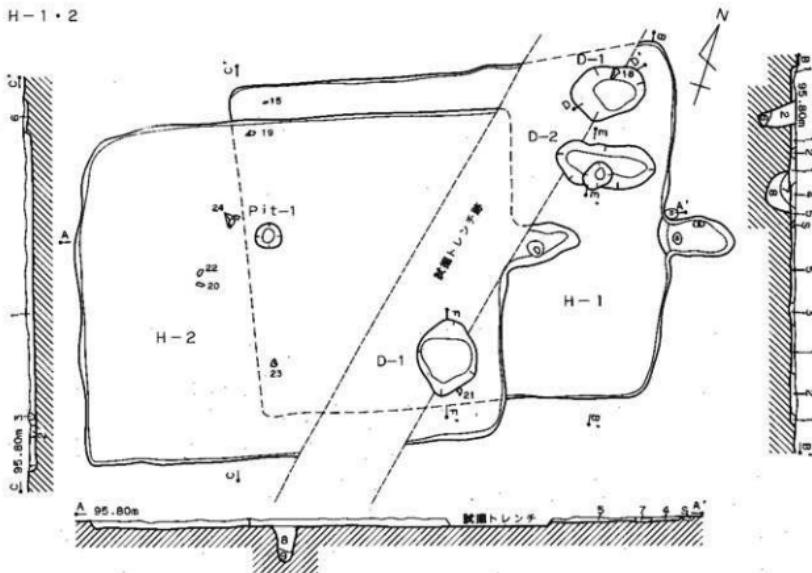
第7図 西側調査区平面図



第8図 W-1~6、D-1実測図



第9図 東側調査区平面図



D-1 (H-1)



H-1・2 土層注記 (A-A', C-C')

- 褐色土層 粘性、締まりあり 上層の所々に As-B 粒石を含み白色粒石と As-C 粒石 1%強と炭化物、土壌片を含む
  - 灰褐色土層 粘性、締まりあり As-C 粒石 1%弱と黒色土を僅かに含む
  - 褐灰色土層 粘性、締まりあり As-C 粒石と Hr-PA ブロックを僅かに含む
  - 褐色土層 粘性、締まりあり 白色粒石粒を僅かに黄土を含む
  - 褐色土層 粘性、締まりあり 白色粒石粒と黄土を含む
  - 褐色土層 粘性、締まりあり 白色粒石粒を含みAs-B 粒石ブロックを含む
  - 褐色土層 粘性、締まりあり 白色粒石粒を含み黄土を含む
  - 褐色土層 粘性、締まりあり As-C 粒石を 1%と黒色土、黄土を僅かに含む 炭化物と土壌片を含む
  - 暗褐色土層 粘性ややあり As-C 粒石と黄土を含む
- 裏引 9 刃は Pt-1 セクション

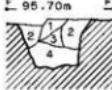
D-2 (H-1)



H-1 土層注記 (B-B')

- 褐色土層 粘性、締まりあり 白色粒石粒 1%を含み黄土を含む
- 褐色土層 粘性、締まりあり 白色粒石粒を 1%強含み黄土を多く含む
- 褐色土層 粘性、締まりあり 白色粒石粒を僅かに含む
- 褐色土層 粘性、締まりあり 白色粒石粒を僅かに含み、桃土・黄土を含む
- 褐色土層 粘性、締まりあり 白色粒石粒と黄土を含む
- 褐色土層 粘性、締まりあり As-C 粒石 1~3mm を含む
- 褐色土層 粘性、締まりあり 黄褐色土と炭化物を所々に含み黒土を多く含む
- 灰褐色細砂層 粘性、締まりあり 塵土・炭化物を所々に含み黒土を含む

D-1 (H-2)



H-1・2 D-1 土層注記 (D-D')

- 灰褐色土層 粘性ややあり、締まりあり 塘土・炭化物を所々に含み灰層を多く含む
- 灰褐色土層 粘性ややあり、締まりあり 白色粒石粒と As-C 粒石を 1%弱含み 土壌粒・炭化物・白色土ブロックを含む
- 暗褐色土層 粘性ややあり、締まりあり As-C 粒石と黒色土を含む
- 褐色土層 粘性、締まりややあり、締まりあり 精粒と黑土・土壌粒を僅かに含む

H-1 D-2 土層注記 (E-E')

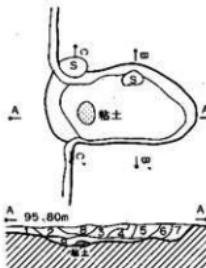
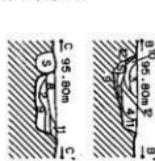
- 灰褐色細砂層 粘性ややあり、締まりあり 黄褐色土粒と As-C 粒石 1~3mm を 1%弱含み 炭化物・土・土壌粒を含む
- 灰褐色土層 粘性ややあり、締まりあり 白色粒石粒と As-C 粒石 1~3mm を 1%弱含み 土壌粒・炭化物を所々に含む

- 灰褐色土層 粘性、締まりややあり As-C 粒石を 1%弱含み黒色土を僅かにブロック状に含む
- 暗褐色土層 粘性、締まりややあり 精粒を僅かに含み黄褐色土質ブロックと黒色土を含む

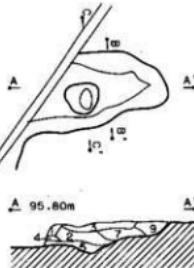
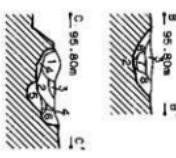
0 1:60 2m

第10図 H-1・2 実測図

H-1 カマド



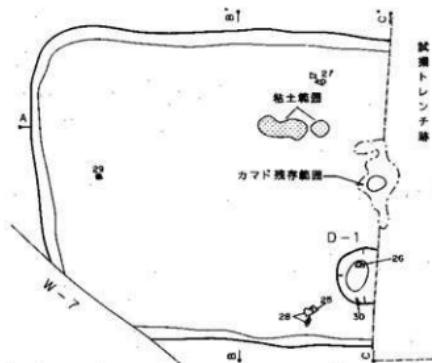
H-2 カマド



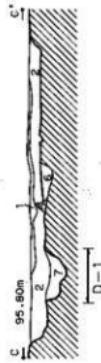
H-1 カマド 土質記述

- 褐色土層 粘性ややあり、締まりあり 白色粗石粒と燒土・黃色土を含む  
かに含む
- 褐灰色土層 粘性ややあり、締まりあり 白色粗石粒と燒土粒・炭化物を僅  
かに含む
- 褐色土層 粘性ややあり、締まりあり 白色粗石粒と燒土ブロックを含む
- 褐色土層 烧土ブロックを30%含む
- 褐色土層 粘性ややあり、締まりあり 白色粗石粒と燒土粒と灰を含む
- 褐色土層 烧土ブロックと灰の混じる層
- 褐色土層 粘性ややあり、締まりあり 白色粗石粒と燒土・灰を僅に含む
- 褐色土層 粘性ややあり、締まりあり 白色粗石粒を含み燒土粒を1%含む
- 褐灰色土層 粘性ややあり、締まりあり As-C粗石粒と灰・炭化物を僅か  
に含む
- 褐色土層 粘性ややあり、締まりあり 白色粗石粒を含み炭化物・燒土粒を  
所々に含む
- 褐灰色土層 粘性ややあり、締まりあり 白色粗石粒を含み炭化物・燒土粒を  
含む
- 褐色土層 粘性ややあり、締まりあり 白色粗石粒と燒土粒を含む
- 褐色土層 粘性ややあり、締まりあり 燃土ブロックを含む

H-3



0 1:30 1m  
N



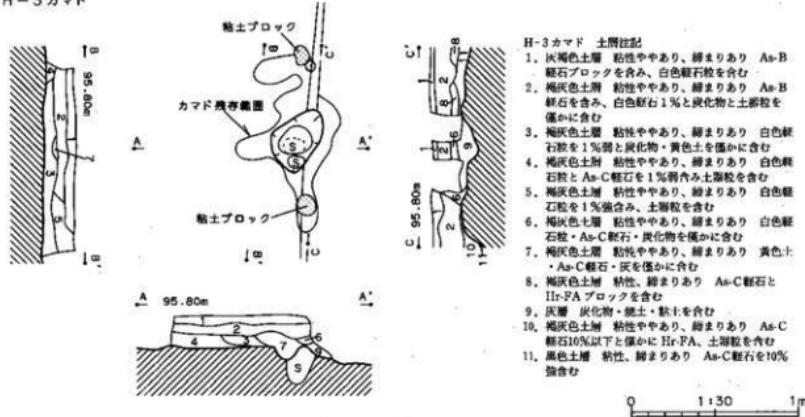
H-3 土質記述 (A-C断面)

- 褐色土層 粘性、締まりあり 上層に As-B粗石が約1~2mmの厚さでブロック状にあり、  
白色粗石約1~3mmを10%含み僅かに炭化物・土壌片を含む
- 褐色土層 粘性、締まりあり As-C粗石と白色粗石粒を20%含み炭化物・土壌片も含む
- 褐色土層 粘性、締まりあり 白色粗石と土壌片と炭化物を僅かに含み粘土塊が多く混入
- 褐色土層 粘性、締まりあり 白色粗石粒を1%含む
- 灰褐色土層 粘性、締まりあり 白色粗石と黄色土を含む
- 灰褐色土層 粘性、締まりあり As-C粗石と白色粗石10%と炭化物・土壌片・黄色土を僅かに含む

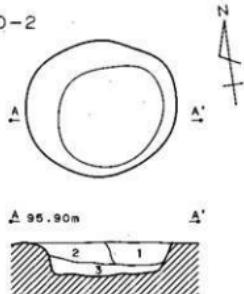
0 1:60 2m

第11図 H-1・2カマド、H-3実測図

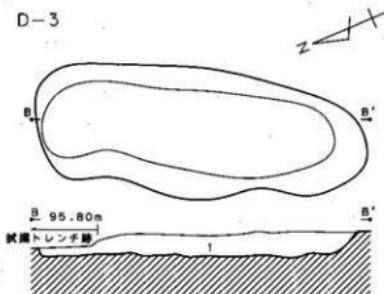
H-3カマド



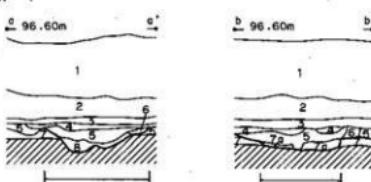
D-2



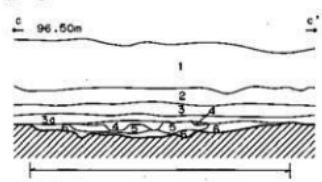
D-3



W-7

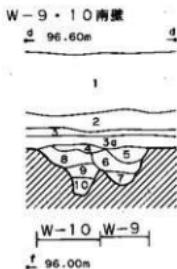


W-8



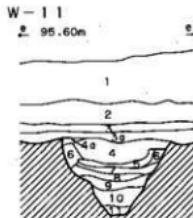
0 1:40 2m

第12図 H-3カマド、D-2・3、W-7・8実測図



W-9 + 10 土層記

1. 黄土
2. 喀灰色細砂層 粘性なし、縫まりあり
3. 再現色細砂層 粘性なし、縫まりあり、As-B 鉱石を10%含む
- 3a. 明褐色細砂層 粘性ややあり、縫まりややあり、As-B 鉱石を10%含む
4. 黄褐色細砂層 粘性なし、縫まりややあり、白色鉱石を僅かに含む
5. 明褐色細砂層 粘性、縫まりなし、As-B 鉱石を10%含む
6. As-B 鉱石を非常に多く含み砂層とのラミナ状を呈する
7. 喀灰色粘土層 粘性、縫まりあり
8. 喀灰色細砂層 粘性、縫まりあり、白色鉱石約 1~3mm を1%含む
9. 明褐色細砂層 粘性、縫まりあり、5層より鉱石が少ない
10. 喀灰褐色細砂層 粘性、縫まりややあり、鉱石を含まない



W-11 土層記

1. 底土
2. 喀灰色細砂層 粘性なし、縫まりあり
3. 黄褐色細砂層 粘性なし、縫まりあり、As-B 鉱石10%僅含む
- 3a. 明褐色細砂層 粘性ややあり、縫まりあり、As-B 鉱石を10%含む
4. 明褐色細砂層 粘性なし、縫まりあり、白色鉱石を5%含む
- 4a. 明褐色細砂層 縫まりあり、As-B 鉱石を多く含み白色鉱石約 1~3mm を僅かに含む
5. 喀灰色細砂層 粘性なし、縫まりややあり、ラミナ状を呈する
6. 喀灰色細砂層 粘性なし、縫まりあり、白色鉱石を1%含む
7. 喀灰色細砂層 喀灰色を帯びる(9:1)
8. 喀灰色細砂層 粘性、縫まりややあり
9. 喀灰色粘土層
10. 喀灰色粘土層 粘性、縫まりあり
11. 明褐色粘土層 粘性を僅かに含む



W-9 + 10 土層記

1. As-B 鉱石を90%含み砂層とラミナ状をなす
2. 暗褐色細砂層 中央に1層と同じ砂層を含む
3. 褐色微砂層 粘性、縫まりなし
4. 喀褐色細砂層 粘性なし、縫まりあり、白色鉱石を5%含む
5. 喀褐色微砂層 粘性なし、縫まりややあり、ラミナ状を呈する
6. 喀褐色細砂層 粘性なし、縫まりあり、白色鉱石を1%含む
7. 喀褐色微砂層 粘性、縫まりなし

W-13



1. 黄褐色細砂層 粘性ややあり、縫まりあり  
白色鉱石と漂白の細砂を僅かに含む

W-12 土層記

1. 黄土
2. 喀褐色細砂層 縫まりあり
3. 黄褐色細砂層 縫まりあり、As-B 鉱石10%含み僅かに小礫を含む
4. 喀褐色細砂層 粘性、縫まりあり、As-B 鉱石5%含む
5. 喀褐色細砂層 粘性ややあり、縫まりあり、白色鉱石を僅かに含む
6. 喀褐色細砂層 粘性ややあり、縫まりあり、白色鉱石 ϕ 5mm を5%含む

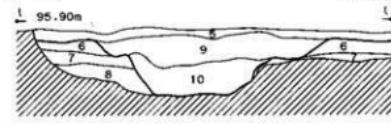
W-14



W-14 土層記

1. 喀褐色細砂層 粘性ややあり、縫まりあり、白色鉱石10%含む
2. 喀褐色微砂層 粘性、縫まりややあり、粘土ブロックを含む As-C 鉱石を 1% 含む
3. 喀褐色細砂層 粘性あり、縫まりややあり、As-C 鉱石を 5% 含む
4. 喀褐色細砂層 粘性、縫まりややあり、As-C 鉱石を 1% 含む
5. 黄褐色粘土ブロック

W-15

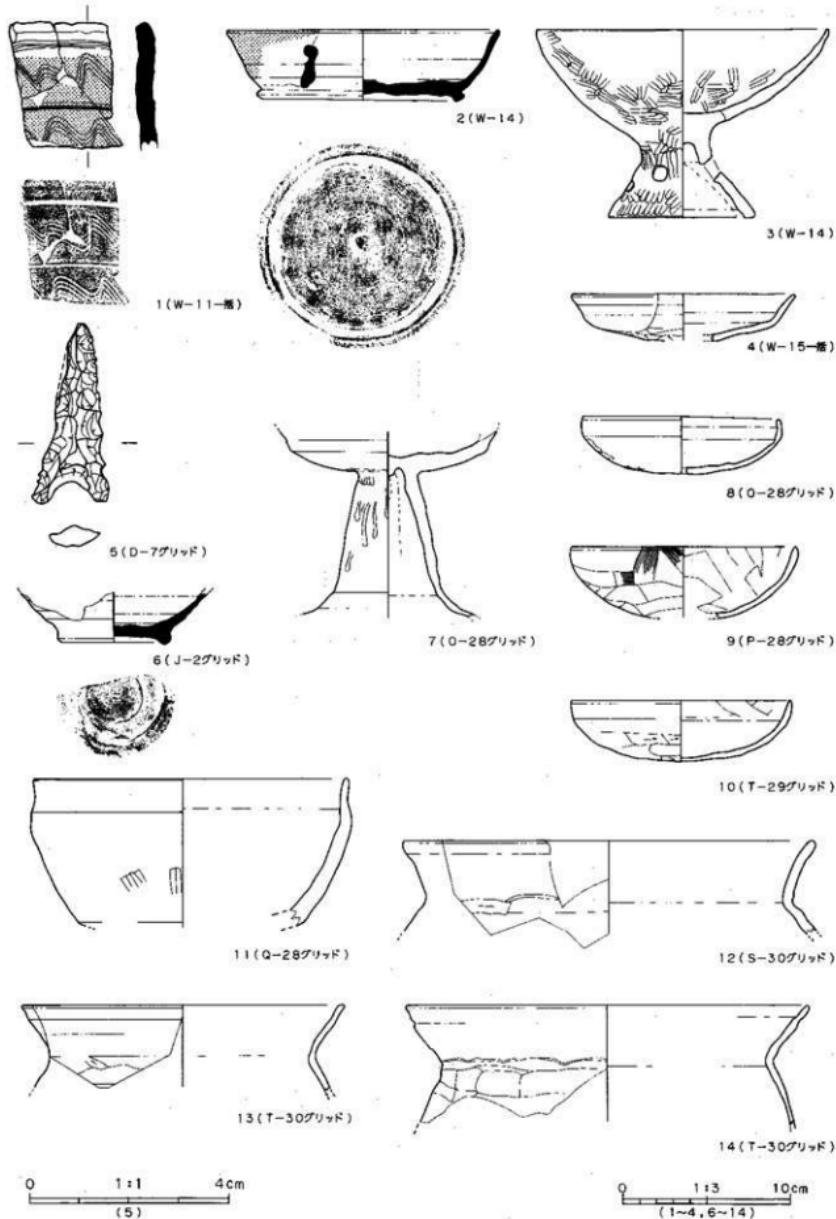


W-15 土層記

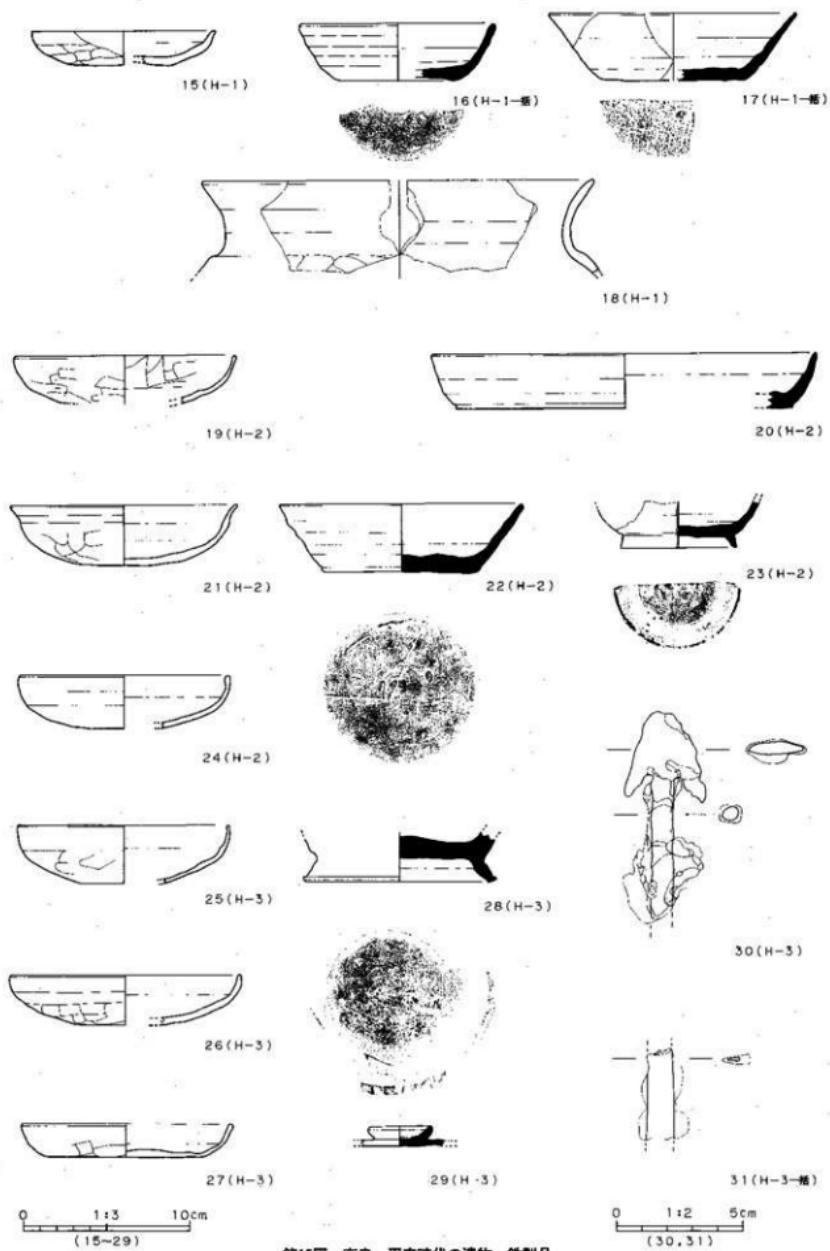
1. 黄色土、黒褐色土層の縫土
2. 喀灰色土層の縫土
3. 黄褐色細砂層 As-B 鉱石を含み、僅かに黄褐色土を含む
4. As-B 鉱石層
5. 黄褐色土層 粘性ややあり、縫まりあり、As-B 鉱石をブロック状に含み、As-C 鉱石を 1% 以下に含む
6. 喀褐色土層 粘性、縫まりややあり、As-C 鉱石 ϕ 1~3mm を 1% 強含む
7. 黑褐色土層 粘性、縫まりあり、As-C 鉱石 ϕ 1~3mm を 1% 強含む
8. 黑褐色土層 粘性、縫まりあり、僅かに鉱石を含む
9. 黑褐色土層 粘性、縫まりあり、As-C 鉱石 ϕ 1~3mm を 1% 含み砂層も含む
10. 喀褐色土層 粘性、縫まりあり、As-C 鉱石を僅かに含み、灰黄色粘土ブロックを所々に含む
11. 灰黄色土層 粘性、縫まりあり、As-C 鉱石 ϕ 1~3mm を 1% 含み、白色鉱石、炭化物、遺物を所々に含む

0 1:40 2m

第13図 W-9~15断面図



第14図 石器、古墳～奈良・平安時代の遺物



第15図 奈良・平安時代の遺物、鉄製品





西側調査区 調査前現況（南から撮影）



東側調査区 調査前現況（西から撮影）



西側調査区 作業風景



西側調査区 全景（南から撮影）



西側調査区 全景（東から撮影）



W-3 全景



W-4 全景

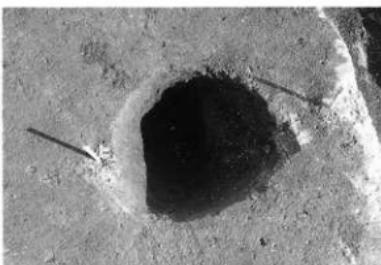


W-5 全景

図版 2



As-B 軽石下水田面に残る足跡群



D-1 全景



東側調査区 全景（南から撮影）



東側調査区（西から撮影）



H-1・2 全景



H-1 カマド 完掘状況

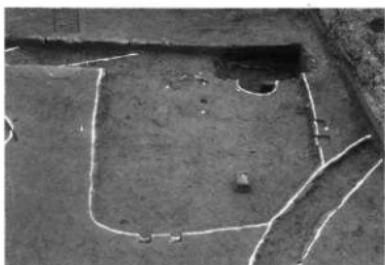


H-2 カマド 完掘状況

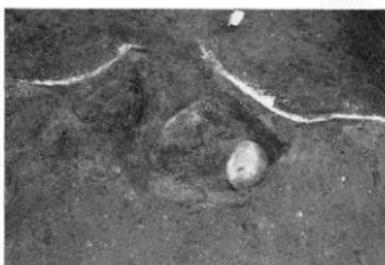


H-1・2 遺物出土状況

図版 3



H-3・W-7 全景



H-3 カマド 残存状況



H-3 遺物出土状況



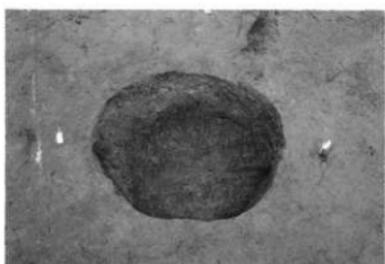
H-3 出土遺物（鉄錆）



W-8 全景



W-9・10・11（右から）全景

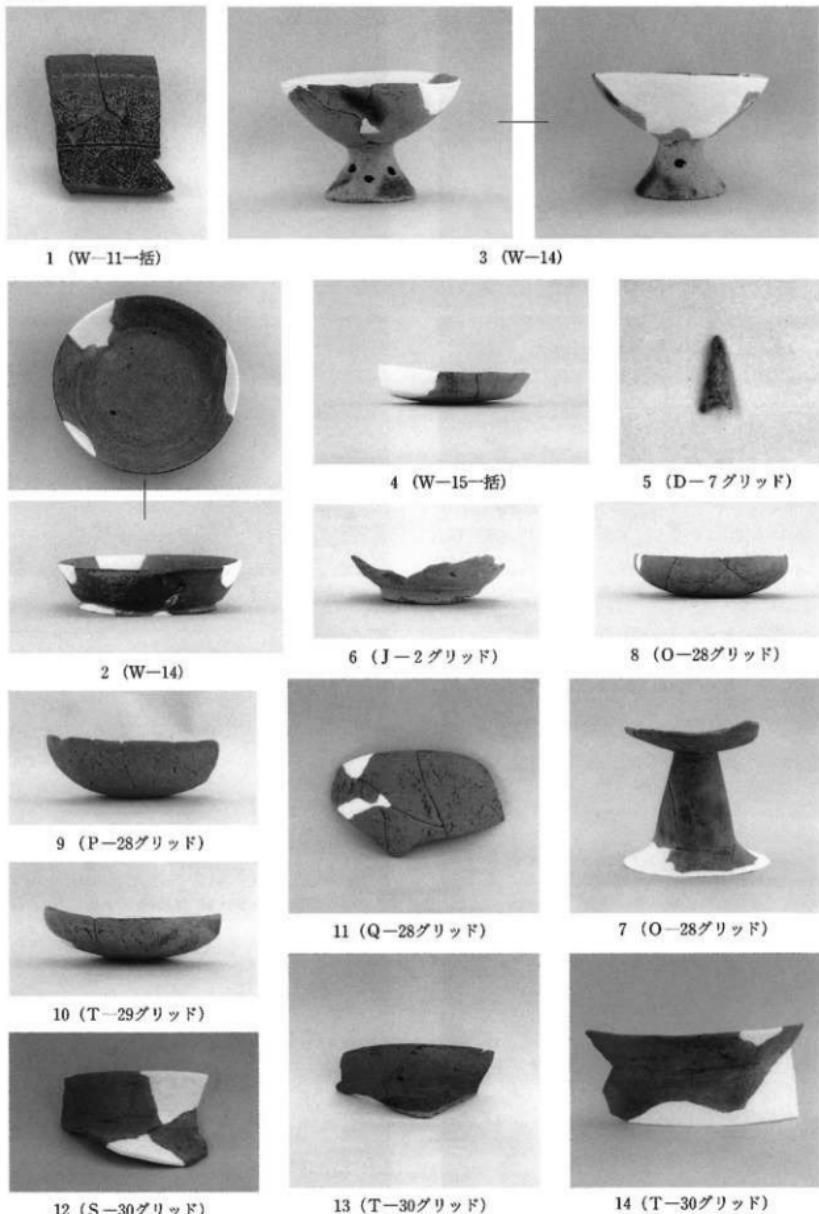


D-2 完掘状況

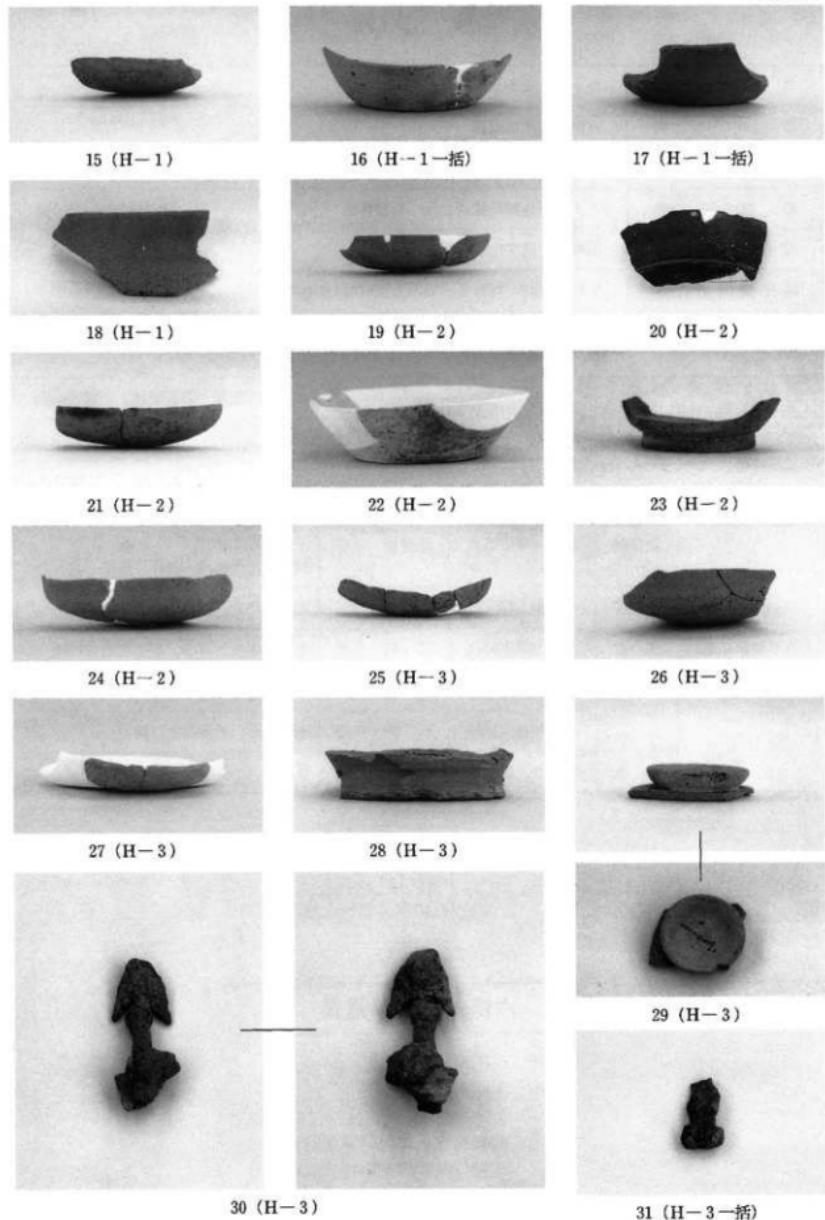


D-3 完掘状況

図版 4



石器、古墳～奈良・平安時代の遺物



奈良・平安時代の遺物・鉄製品

## 抄 錄

フリガナ	ロックシモドウギゴイセキ
書名	六供下堂木V遺跡
副書名	店舗建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	スナガ環境測設株式会社 萩野博巳
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0007 群馬県前橋市上泉町664番地の4
発行年月日	西暦1999年3月26日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ロックシモドウギゴイセキ 六供下堂木V遺跡	ヤヌカヒタシロコダマチ 前橋市六供町	10201	10H31	36°22'07"'	139°04'50"'	19990128 19990326	2550m <sup>2</sup>	店舗建築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
六供下堂木V遺跡	集落跡	奈良・平安時代	住居址 3軒	土師器壊・甕片、須恵器高台付塊・蓋片、鐵錠
	水田跡	平安時代	水田跡 19面	土師器壊片・須恵器片
	溝跡	古墳～平安時代	溝跡 9条	土師器壊片・高壙・須恵器高台付塊
	中世以降	溝跡 1条	なし	
	近世・近代以降	溝跡 5条	土師器片・須恵器片・陶器片	
	土坑	中世以降	土坑 3基	なし



### 六供下堂木V遺跡

1999年 3月26日 印刷  
1999年 3月26日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市上泉町664番地の4

編集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地の1



